

令和2年度市政懇談会(島原翔南高校)会議録

- 期 日:12月22日(火)
- 場 所:県立島原翔南高校
- 参加者:3年生 10人

行政に関心を持ってもらうことと将来を担う若い世代の視点での意見を市政に反映することを目的に、市内高校生を対象として懇談会を開催しました。

日頃、生徒たちが地域の課題解決のために取り組んでいる課題研究について、各グループの代表者による発表の後、意見交換を実施しました。

●課題研究発表テーマ

- ・「“ひよっつる”で町おこし」～コロナ禍でのPR方法～
- ・南島原NAVI★WEB地図プロジェクト～アニメ de 聖地巡礼の旅召喚「シン」～
- ・特産品で地元を救え～アレンジレシピで企業に貢献～
- ・果物Soupで手を洗おう!!～特産物を使った石鹸で心も体もキレイに～
- ・南島原やっちゃよかばい!～南島原人口増加計画～
- ・水面きらめく有明海を未来に繋げよう
- ・#介護予防を拡げよう!!

以下、主な懇談内容。

課題研究発表について

【市】

・皆さん、それぞれふるさとに思いを寄せた活動をされていると感じた。研究課題に取り組むにあたって苦労した点はこういったところがあるか。

【高校生】

・最初は自分自身もひよっつるを知らなかったなので、人に伝えるために自分が知ることから始めた。人へ伝えるために、どのような伝え方がいいのか考えるのに苦労した。

・新型コロナウイルス感染症が流行している中で、人と接触しないようにしながらどのようにインタビューするかを考えるのが大変だった。問題点が出てきたが、それに対する改善策があまり出てこなかった。インタビューでいろんな方にリモートで話を聞いたりして、南島原を第三者から見たときに見えるかを聞いたりしながら、そこから考えるという点に苦労した。

・コロナ禍により実習ができなかった。コロナで学校が休校になり、みんなで集まる機会もなかなかなかった。試食をつくる時、みんなで集まることが少なかったし、企業の方と連絡を取ることができなかったことに苦労した。

・特産物を使って石けんを作り、それを福祉施設に提供することを最終目的としているが、自分たちで作る石けんに除菌力がどれくらいあるか、きちんと菌が落ちるかなどを考えていくのに苦労した。

・南島原市の高齢者率が増えているということで、介護予防体操を自分たちで制作して広めようとした。要介護状態からどのようにしたら要支援にもっていけるかということを一から考えた。体操の作り方の大切さや大変さを知った。

【市】

・先ほど、そうめんの研究発表があったが、南島原市は手延そうめんのまちということはもちろんご承知のとおり。そうめんクロワッサンというのはおもしろいアイデアだと思った。商品化に際しては何が課題だと考えるか。

【高校生】

・商品化に関して、衛生面の管理と量産することが難しいということが課題。一つひとつ手で巻いてつくるので時間がかかる。その日によって気温などが違うので、焼き方加減が変わってくるということが難しい。

【市】

・市は高齢化が進んでいる状況。市の人口が急激に減少しないように、何とかこの地に来て仕事をして暮らしていただける方を一人でも多くということから移住政策に取り組んでいるところ。それぞれのチームがいろんな分野に渡って、研究課題に取り組んでいただいた。大変ありがたい。

ふるさとへの想いについて

【高校生】

・2年生時に修学旅行で東京に行った。東京は魅力的ではあったが、地元には自然の美しさや新鮮なものが味わえるなどの魅力がある。できることとできないことがそれぞれある。無理に商業施設を造らずに、自然を生かした施設などを造る取り組みをした方がいいと思う。

・南島原市は人が温かい。高校に行くときや帰宅時に、初めて会った人でも「行ってらっしゃい」や「おかえりなさい」など温かい声かけをしてくれる。学校で疲れていても元気になる。

【市】

・朝夕、学校の行き帰りに声をかけていただくということは、本当にうれしいもの。私も学生の頃は、そういう経験をしながら通学していた。

【高校生】

・南島原市には、みかんやそうめん、ひよつるがあって、食べ物の中にどのような成分、体に良いものが入っているか知らなかったが、課題研究を通して企業さんにインタビューをして、いろいろな魅力を知ることができて誇りに思っている。

【市】

・先ほども皆さん、それぞれふるさとに思いを寄せた発表をしていただいて感心したし、ありがたいと思った。

南島原市内での就職、他市・他県での就職後のUターンについて

【高校生】

・私は進学することとしている。作業療法を学んで、地元で福祉施設に就職したいと考えている。地元の役に立つし、お世話になった方々のお世話をできる点では帰ってきたいと思うが、それ以外の点では、自然の魅力はあるけど交通の便など不便なところもあるので、自分の子どもを育てるときに交通の便が良くなればいいと考えている。

・老後は市にいたいと思うが、老人になったときに運転とかに不安がある。どうしてもバスやタクシーを使うことになるが、バスも1時間にあるかどうかという部分で、高齢者になって買い物とか行くときに交通網が悪いと不自由を感じて、自分の生活が豊かにできないということなるのが嫌だと思う。

【市】

・高齢になれば車が運転できなくなると不安に感じてしまうのはわかる。公共交通環境を整えるのは大事なことだ。

住みたい地域の条件について

【高校生】

・地元で就職することとしている。日常生活で買い物に行くとなったら、有家まで行かないといけな。近くに大きなお店があった方がいい。

・近くにストレス解消できる施設がほしい。温泉やアスレチックなど体を動かしたり休めたりすることができる施設があればと思う。

・若者の集まる施設をつくるのが大事だと思う。近くにイオンがあり、まわりにジョイフルやツタヤがあるが、その他には施設がない。大人から子どもまで集まって楽しめるカフェ併設の図書館などの施設があればいい。

【市】

・図書館は市内にもたくさんあるが、そこで集まってリラックスできればという考えだと思う。都会ではカフェを併設したそのような施設がある。そういうイメージだと思う。

【高校生】

・子育てがしやすい、治安がいいところ。親からしたら子どもが見える場所。子どもが自分で学べて、自然と触れ合えるようなところに住みたい。南島原市には自然があふれているので向いているが、公園が少ない。あっても遊具が少ない。子どもの身体能力を高める場所、高齢者が運動できる場所があったらいいと思う。

市の課題・課題解決のためのアイデアについて

【市】

・これまでの話でもあっているが、南島原市に住み続けたいという部分で課題は何があると思うか。

【高校生】

・課題としては交通の便の不便さ、働く場所の少なさだと思う。自分も地元に戻ってきて仕事に就き

たいと思うが、少子高齢化が進んでいて福祉の就職先は多いかと思うが、それ以外に関してはどういったところで働けるとかあまり分からない。市から高校とか中学校の方に、地元ではどのような働き方があるとか、テレワークとかでも田舎の方がいいのではという部分もあるので、テレワークの仕方でも提案があれば、雇用の幅が広がると思う。

・いーとばいチケットの5,000円は市民に配られていると思うが、それを消費するためには移動しないといけない。使える場所が示されているが、高齢者からしたら使える場所まで行ける交通手段がないので、併せて交通サービスの支援を充実したらいいと思う。

【市】

・いーとばいチケットは短期間に使ってもらうものだが、高齢者の足を確保するために、コミュニティバスのようなものなどを取り入れて足の確保しようと、市でも検討しつつある。既存のバスが通っているのは大きな道路沿いだけで便数も少ない。大きな課題だと認識している。

【高校生】

・空き家などをリフォームして、観光客などに利用してもらうことで住みやすい環境になると思う。

【市】

・市内には空き家が多数ある。空き家の紹介をホームページなどで情報提供して移住の検討材料にしてもらっている。すぐに入れる空き家ばかりではなく、修復をしないと入れないような空き家もある。そのための支援制度として改修補助金などを用意して対応しているところ。何とかして空き家に入ってもらって、少しでも人口が減らないように各部署で取り組んでいるところである。皆さんがそういう部分に関心があるのはありがたい。

もし市長になったら(どんなまち(市)にしたいか)

【高校生】

・観光施設として原城がメインだが、原城を体験したあとに帰っていく人が多い。原城跡だけでなく、市全体で動ける観光ツアーがあったら観光業がもっと盛り上がり、南島原に来ていいまちだなと感じてもらえるきっかけになると思うので、そういった取り組みをやってみたい。

【市】

・例えばどのような場所を考えるか。

【高校生】

・ロ之津の瀬詰崎灯台の夕日がきれい。鮎帰りの滝など自然に囲まれていて魅力的。高校生などの若者が魅力を感じるスポットを組み込むことで、体験の幅が広がると思う。

・南島原市の特産品である島原手延そうめんをもっと発信していきたい。現在、コロナ禍で保存がきくそうめんが売れているが、この流れにのってさらに発信していきたい。

【市】

・そうめん産業を振興するために、PR動画を関東圏でテレビ放送したり、YouTubeで流したりしている。販売を拡大していくために、あなたはどのようにしたらいいと考えるか。

【高校生】

・そうめんはおかずや主食として夏の期間に食べるイメージがあるが、夏限定ではなく春夏秋冬いつでも食べられて、おかずや主食としてだけでなくスイーツやお菓子などのいろんな食べ方があるというのを広めていく。

【市】

・課題研究でそうめんを使ったお菓子「そうめんクロワッサン」の味はどうだったか。いくらぐらいで売れそうか。

【高校生】

・最初は持ちにくかったり見た目もよくなかったり、味も最初の方はおいしくなかったが、改良を重ねていっておいしくできるようになった。企業とコラボして商品販売できたらと考えている。

【市】

・協力して研究を重ねてきたということだが、若い人たちの感覚を合わせてそういった形で地元の産業振興に皆さん方のアイデアや思いが繋がっていく。

【市】

・課題研究でみかんを使った石けんを作っていたが、香りはどうだったか。商品化できそうか。

【高校生】

・香りがまったくなくて、香りを出すのがなかなか難しい。除菌の面では市販のものと同じくらいになったが、みかんの香りと見た目の方を試行錯誤している。

【市】

・研究が基本になって商品化して、1つの会社につながりそこに雇用が発生する。そうすることで人口減少が少しずつ改善されていくと思う。そういった若者の発想を期待している。

【高校生】

・3つある。魅力度ランキングなどで全国的に温泉が魅力といわれている。普賢岳もあるし温泉が出やすい地域だと思う。温泉をツアーに組み込んで、リゾート温泉の施設を造れば自然もあるし、温泉もあるし、最終的にそこに泊まることができれば、実際に自分も体験してみたいと思うし泊まりたいと思う。2つ目は、空き家の対策をすれば移住者が来てくれるかもしれない。地元の建築業者の方に話を通して、建築関係に就職できるというのを市から県内の高校に空き家の対策をするということで募集をかければ、雇用の場も広がる。地域の建築会社に仕事を頼めば、移住者も増えて、雇用の場も広がり、建築業者の方も仕事ができる。3つ目は、第2期総合計画がホームページに載っていると思うが、これを見て、自分たちもこれができているけど、これはできていないなというのが分かる。市内の住民の方はこれをあまり知らないのではないかと思う。こういったものを市民に知ってもらえれば、この部分はできていないので自分も協力してやってみようなど、それぞれに動く動機付けになるのではないかな。これからもこういった機会を、高校生だけでなく中学生とかと開いてもらえれば、若者世代からの意見が出てくるので、こういった取り組みをしたい。

・課題研究で海や山のボランティア清掃を実施した。今、自分たちがしている活動を卒業しても継続していくように生徒会に学校でボランティアを募れないかと提案しようと思っている。ボランティア活動を広報紙で広めたい。

【市】

・住みやすい環境を整えるためにさまざまところで、いろんな分野でそういった活動をされている。

【高校生】

・南島原のPRをしたい。今回の課題研究を通して、市内には魅力がたくさんあることが分かった。2カ所のカフェに行って、まだ自分の知らない店とかがたくさんあるのでそれらをPRして、まず南島原市の人に知ってもらい、それから一人ひとりが口コミで拡散をしていければと思う。

・諫早市での取り組みを調べたとき、農業を広めるにあたって、農業がしやすい環境づくりを支援されている。そういうのが現在、市にあるのか知らない。自分のまわりの大人も知らない。そういうことをやっているということをもっとSNSなどで若者に向けて発信して市の魅力をつくりたい。

【市】

・農業機械は高額。それをいきなり調達するのは厳しい。その部分に初期投資をしなくていいように、リースなどで取り組みができるようなことができないかを検討している。具体的な大がかりな仕組みはまだできていない。

【市】

・初期投資的なものに対しての一定の支援は現状している。他市と比べて見劣りするような支援ではないと思う。

【市】

・皆さんの若い感性でいろいろな意見をいただいた。こういう機会を設けていただいて学校関係者の方に感謝したい。ぜひ後輩の皆さんにも思いを伝えてほしい。皆さんのご意見を今後に取り入れていければと考えている。